

Role of TGF- β in tissue eosinophilia associated with vernal keratoconjunctivitis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2011-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大友, 香里 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001073

順天堂大学 博士 (医学)

氏名 大友 香里

論文題目 Role of TGF- β in tissue eosinophilia associated with vernal keratoconjunctivitis

(春季カタル巨大乳頭組織の好酸球浸潤における TGF- β の役割)

論文内容の要旨

目的：好酸球浸潤を伴う春季カタル結膜巨大乳頭組織における TGF- β 1 の役割について検討した。

方法：春季カタル患者 5 例より切除した結膜巨大乳頭組織を用いて、TGF- β 1 と TGF- β 1 関連蛋白の発現を免疫組織染色法により検討した。コントロールには、アレルギーを認めない正常結膜組織を用いた。培養ヒト結膜線維芽細胞及び培養ヒト角膜線維芽細胞を用いて TGF- β 1, IL-4, IL-13 刺激による eotaxin 産生を ELISA 法により測定した。また培養ヒト角膜線維芽細胞において、Dexamethasone, Fluorometholone, Cyclosporine, Tacrolimus が eotaxin 産生に及ぼす影響を評価した。

結果：春季カタル患者の結膜巨大乳頭組織において、TGF- β 1 を発現している好酸球が認められた。またリン酸化 Smad2, Integrin α 6, α -smooth muscle actin, type I procollagen, tenascin-C といった TGF- β 1 関連蛋白の発現が認められた。培養ヒト結膜線維芽細胞及び培養ヒト角膜線維芽細胞において、IL-4 (100ng/ml) 単独刺激と IL-13 (100ng/ml) 単独刺激により eotaxin 産生が増加した。また、TGF- β 1 (20ng/ml) と IL-4 (100ng/ml) 同時刺激、TGF- β 1 (20ng/ml) と IL-13 (100ng/ml) 同時刺激により eotaxin 産生は相乗的に増加した。これらの刺激による eotaxin 産生の増加は、培養ヒト角膜線維芽細胞において、Cyclosporine (1000ng/ml) と Tacrolimus (1000ng/ml) による抑制は見られなかったが、Dexamethasone (100nM), Fluorometholone (100nM) により抑制された。

結論：春季カタル結膜巨大乳頭組織において、好酸球由来の TGF- β 1 が組織の好酸球浸潤において重要な働きをしていると考えられる。